

第2次加東市総合計画(案)の答申を受けました



第2次加東市総合計画は、市の最上位の計画として、平成30年度から10年間のまちづくりの総合的な指針となるものです。このたび、市民ワークショップや市民アンケート、タウンミーティング、パブリックコメントなどの結果を踏まえ、市民代表や学識経験者20人で組織する『加東市総合計画審議会』の5回にわたる審議により、第2次加東市総合計画(案)がまとめられました。

1月29日には、同審議会の梅野巨利会長(大阪商業大学教授・写真中)と三木秀文副会長(市区長会長・写真右)が安田市長を訪問。取りまとめた総合計画(案)を答申し、計画に基づいたまちづくりの着実な推進について要望されました。

夢きらめきコンサート



1月21日、やしろ国際学習塾で『夢きらめきコンサート』が開催されました。このコンサートは、女性と女兒の生活と地位向上のため、様々な活動を展開している奉仕団体・国際ソロプチミスト北播磨が主催されたもので、今回が初開催でした。

コンサートは、ピアニスト安岡典子さん、声楽家笹倉由理さん、ピオラ奏者山本英恵さんの共演で、崖の上のポニョなどのアニメソングから、カルメン『ハバネラ』などのクラシックまで、幅広い曲が演奏されました。また、国際ソロプチミスト北播磨のみなさんによる手話歌『花』の披露や、子どもたちへのプレゼントコーナーなど、盛りだくさんの内容で、集まった約200人の親子連れは大喜びでした。

さい銭をまいて厄払い



2月11日、河高地区の河高八幡神社で、河高厄除祭が開催されました。投げられたさい銭を子どもたちが拾う神事で知られるこの祭り。今年も、厄年を迎えた地区内外の人々が、次々に硬貨や餅をまいて厄を払っていました。

さい銭を拾えるのは河高地区在住の中学生以下男子のみ。法被を着た子どもたちは、さい銭をまく人に大きな声で「お兄さん! こっちへお願いします!」と呼びかけながら、必死に拾い集めていました。

さい銭をまいた同地区出身の奥野久士さんは「子どものころは、厄除祭がとても楽しみでした。子どもたちが楽しんでくれていれうれしいです」と話しておられました。

まちかどトピックス

身近な話題など、お気軽にご連絡ください。
広報係がカメラを持って伺います。

☎43-0387

第40回読売新聞社杯争奪北播磨少年サッカー大会 優勝

第37回小野加東ロータリークラブ杯ジュニアサッカー大会 優勝



社フットボールクラブジュニア

ありがとうございます



兵庫教育大学大学院平成29年度修了生のみなさんから、瀧野地域のこども園などに、5万円相当の絵本をいただきました。



加東ライオンズクラスのみなさんから、加東市民病院に歩行器2台、歩行車1台(計15万円相当)をいただきました。

無病息災願い火渡り



2月11日、上久米地区の東光寺で大日祭が開催されました。大日祭は、牛馬安全や無病息災を願う恒例の祭事です。大般若経の転読法要のほか、山伏による護摩供、護摩壇を崩した火の上を参拝者が素足で歩く火渡り行などがありました。

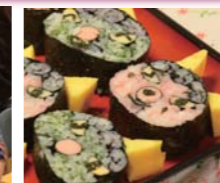
兄弟で参加した田中義史さん(箕面市・6歳)は「サッカー選手になりたいので、強くなろうと参加しました。怖くなかったよ」と話していました。

第3回 オープントーナメント 世界総極真近畿新人大会



小学3年男子上級の部 優勝 藤本琉輝 (瀧野東小3年)

親子で鬼の巻きずしづくり



2月3日、やしろショッピングパークBioの多目的ホールで、節分にちなみ、鬼の顔をかたどった巻きずしを作る『デコ巻きずし教室』が開催されました。教室では、市内外から集まった親子連れ16人が、玉子焼きやのり、ソーセージなどを使い、豊かな表情の鬼を作って楽しみました。

親子で参加した中谷優斗さん(三田市・けやき台中1年)は「鬼の目元が特にうまくできましたと思います。料理は普段していませんが、おいしくできたので、興味が出ました」と喜んでいました。

職業の魅力 現場で体験



2月5日から9日にかけて、社高校生活科学科の2年生が、食生活関連の事業所や保育・教育関連の事業所で、職業体験に参加しました。この活動は、自らの専門性を高めることと、現場での体験から進路や目標を明確にすることを目的に、毎年実施されています。

泉保育園で保育士の仕事を体験した堀江実早さんは「現場で子どもたちと接するのは初めてでした。みんな笑顔で集まってきてくれて、とてもうれしかったです」と話していました。

社高校 3学科合同課題研究発表会



1月28日、やしろショッピングパークBioの多目的ホールで、社高校の普通科・体育科・生活科学科の3学科合同課題研究発表会が開催されました。同校が東京五輪への機運を高める全国事業推進校となっていることから、体育科3年生で野球部員の小松原赴汰さん、坂口大輔さん、高田快飛さん、藤原佑真さん、吉田光一さんのグループは、五輪をテーマに選択。種目ごとの認知度とメダルの期待度などを調べ『認知され、期待されることは、種目自体の発展につながる』と発表しました。

小松原さんは「今後、自分たちも、スポーツを通じて、オリンピック種目への関心を底上げしていきたいです」と話していました。